

6-1 問題解決の糸口？ Schneiderの配色に不満なし

私自身はシュナイダーの奇をてらわない、上質な印象が好きであるが、愛用している渋い色調のSchneiderにも、とても満足している。

料亭の「まかない」のように、「仕事を任せてもらえる」板前が、冷蔵庫のあり合せの食材で作ったとしても、仕上がり良いはずだ。もしも、「まかない」のように、Schneiderがあり合せの素材で造られたとしても、素晴らしい靴だ。仮に、個性的、独創的な配色になったとしても、それを受け止めるデザイン性があると思う。

6-2 問題解決の糸口！ カラーオーダー会の開催

私は60歳で、赤色の靴を履きたいと考えている。還暦に健康的に歩くことが目標であるが、品格あるシュナイダーのイメージに合うよう年齢を重ね、そして、Schneiderで快適に歩くことをイメージしている。今回、カラーオーダー会が開催されると聞き、赤色の靴が約束されるような高揚感があった。

還暦とは日本の伝統的な行事で、満60歳の長寿の祝いだ。定番の「赤いちゃんちゃんこ」と呼ばれる袖なし羽織、ベストの代わりに、赤いネクタイ、スカーフなど自由に選び、祝い方も多様化している。2世代、3世代で来店されている皆さん、赤い靴を履こう！贈ろう！夏Summer生まれの還暦さんには、赤いサンダルや、軽快な印象のトリコロールカラーの靴はどうだろう。また、私のような冬Winter生まれにはショートブーツが素敵だ。デニムに合わせれば日常使いでき、真赤な口紅を使うスタイルある女性なら、使いこなしてしまうだろう。

話は変わるが、日本は、花嫁の幸せを願う、サムシングフォー、サムシングブルーのように、異文化の習慣であっても、取り入れる傾向がある。反対に、日本の文化である還暦が、「カンレキに、サムシングレッド」として、広まっていくかもしれない。

7 あとがき

私が信頼するシュナイダーシューズは、まさに、靴箱に入っていたチラシに記載してある内容と同じであった。チラシの匠たちは靴造りに集中し、こちらを向いていないが、記載どおりであったことを、ここでお伝えしたい。シュナイダーシューズは、最高品質の履き心地です。素晴らしいフィット感を演出してくれます。靴選びの旅は今日で終わりです。あなたの足で、是非この快適さを味わって下さい。

これまでの感謝を伝えるとともに、Schneiderの製造再開をお願いしたい。また、今もなお、靴を探し続ける旅人に対して、苦痛な旅を終えるチャンス、最高品質の履き心地の機会を与え続けてほしい。